

厳島神社：平家納経の経箱

平家納経として知られる華美な経典は、1164 年に平清盛（1118～1181 年）率いる平家一族が厳島神社に寄進したものです。33 巻からなるその経典が収められていたのは、台のような底面がある、長方形の 3 層の箱です。箱は黒みをおびた銅の合金をに鍛金よって成形されています。収めていたものとほとんど同じほど豪華な装飾の箱です。わずかに凸状のふたには、金の竜が円形に描かれ、銀の雲があしらわれています。仏塔の一種である五輪塔の前で敬意を表す竜が描かれています。側面には、合わせて 8 つの金の竜が飛んでいる様子が描かれ、仏教で多用される数珠の一種をそれぞれが持っています。貴金属を惜しみなく使った箱は、清盛が率いた平家の富と権力を伝えています。また、竜と仏教に関わる題目は、彼らの信仰を表現しています。ここに展示されている箱は、1925 年の複製です。原物は国宝に指定されており、特別な機会にのみ展示されます。